



古流系道祭2017(第一回神戸大会)報告書

(平成 29 年 5 月 13 日開催：於灘高・灘中柔道場)

注：もともとは月刊「秘伝」2017年8月号(7/14発売):用の草稿です。
掲載誌(白黒5ページです)もご参考ください。

文責(主催者): あこう堂・畠山: 昭和63年九大卒

<大会全般について>

「古流柔道祭」と銘打ったこの柔道大会は、今回が記念すべき第一回。「国際柔道」「講道館柔道」とは異なる「高専柔道」を踏襲した「寝業への引き込みあり・マテなし、場外なし、一本決着のみ」で知られた七大学ルール(七大学柔道試合審判規定)を採用。年齢・体重無差別の団体戦でもあり、柔道創成期の対抗戦「投げも極めも決着するまで」を彷彿とさせるが親睦的に行われた。

現在、「国際柔道」では下半身への手での攻撃・防御が禁止となり武術性、護身性は低下、「講道館柔道」は伝統を守っているが、完全決着の「高専柔道」に比べ寝業軽視の歴史があり、また商業主義的な「五輪柔道」の余波で居場所を失いつつある。一方寝業中心の「ブラジリアン柔術」では、手首・足関節技が許される反面「外掛けは禁止」など形態の自由度すら柔道、サンボ、グラップリングに比して制限される部分もあり、抑え込み・投げの軽視、ポイント制に飽き足らない向きもある。(他方でスポーツサンボには絞めがない)。古来の「高専柔道(七大学ルール)」の大会は、このような現状に一石を投じるものともなった。

提唱者の仁木征輝先生(昭和14年生まれ、柔道七段)は草の根のレベルから海外のナショナルチームにいたるまで長年柔道を指導。相撲にも親しみ、合気道、レスリング等も研鑽した在野の武術の達人だが、この寝技技術で知られる高専柔道の伝承者でもある。高専柔道の名門、旧制六高と同じく岡山県で、古来、武道どころでもある津山市には、高専柔道にも名選手を輩出し、旧制中学でも全国制覇の常連であった「白帯津中」「寝業の津山」旧制津山中学があり、その後継の津山高校で多くの高専柔道経験者に鍛えられた。寝技の重要性も誰よりも知り、経験者もほとんどが鬼籍に入った今では「最後の高専柔道」である。

※旧制津山中は、寝業研究会主催の平田鼎先生(関学高商)、「高専柔道の真髄」の治部貞雄先生(同志社高商)、佐藤宣踐先生も指導した三角の名手・木村光郎先生(※同志社高商:昭和12年高専柔道大会では木村政彦の拓大予科を破り、決勝でも北大予科を木村光郎の5人抜き活躍で破り優勝)など高専柔道に名選手を輩出した本流の1つ。

一方、戦後、国際柔道の普及につれ、むしろ日本では高専柔道の消滅によって寝業技術は衰退してきた。さらに近年は、古来の講道館柔道の多くの投げ技も下半身に触れるという理由で「国際ルール」では禁止され、消滅の危機にある。このような現状を踏まえれば、今や高専柔道は、古い寝技中心の柔道への回顧趣味というだけでなく、柔道本来の投げの技術まで含めて全て残し使うことができる武術として新たな役割・意義も生じた。これが今回の「古流柔道」提唱の趣旨、名称とルールの背景である。

会場は、ご縁とご協力により、神戸の名門・嘉納家が設立した嘉納治五郎ゆかりの灘中・灘高の柔道場となり、奇しくも現状を最も嘆いているであろう柔道の祖に「奉納」する形となった。



灘中・灘高の正門にある嘉納治五郎銅像



道場にある直筆の「精力善用」「自他共栄」は、校訓でもある



道場正面中央の嘉納治五郎肖像写真。

※嘉納治五郎は灘中・灘高設立当初から顧問として参画。

今回の「高専柔道（七大学柔道）」は、かつて「講道館柔道」嘉納治五郎氏から「寝技偏重」とされ、軋轢があったことも知られるが、今回、このような柔道界の状況での邂逅には、何かのお導きのような因縁さえ感じられる。そこで、この道を切り開いてこられた先人達への奉納、慰霊の意味も込めて古流柔道「祭」とした。競技大会のように堅苦しくせず、初回の不手際など大目にみて欲しいという思いもある。試合パンフレットも気楽なものとしてもらった。

試合は原則として1チーム7人制、時間は4分または5分（場合により3分）、点取り試合（場合により抜き勝負）。相手チームはその都度自由に決定。出場選手は先鋒から実力下位の順に並べようなどという「お祭り」らしい緩い合意のもと、2試合場を使用して変則リーグ戦として実施。系統が違うチーム、実力が近いチームなど有意義な対戦を優先し、時間内にできるだけ行うものとした。

●開会式



●ルール説明（実演つき）



開会式に引き続き、このルールの骨子を経験者の七大OBが実演つきで解説。さらに、古流の技も仁木先生による解説付で、長崎三菱柔道クラブ、あこう堂（神戸・須磨）が実演。内容は、昔の認定一本である抱き上げ（持ち上げ）、各種ケサ固め、高専柔道で発達した帯取り返し、草刈、浅野返し、各種三角絞めなど。

●演武：抜粋（※当初は、長崎組がカニバサミ、河津掛けも実演すると聞いていましたが、省略されたようです）



・帯取り返し

・帯取り横返し（ローリング）

・浅野返し

・旧式の後袈裟固



・地獄絞め

・股裂き返し

・跳び付き十字

・抱き上げ（昔の認定一本）

試合参加は、「高専柔道系」が「七大若手OB選抜」と「あこう堂」の2チーム、ブラジリアン柔術系として、「吹田柔術」、「ねわざワールド阪神」の2チーム、「講道館柔道」が「長崎三菱柔道クラブ」、さらに仁木の指導も受ける東京の寝業研究会（高専柔道）＋柔術の混成となった「東京仁柔会」の計6チーム。

ただし、主催の「あこう堂」は、初心者、個人参加も含め2チーム分登録しており、さらに種々のレベルの当日参加まで受け付けたため、約1チーム分の混成選手も追加となり、最終は全50名強、実質8チーム分となった。追加分も含め、レベルを勘案しながら、怪我のないよう、全員出場させるためには、選手配分と対戦に難渋した。今後、募集・運営法は見直したい。あこう堂を調節弁としてあこう堂から出場させたり、余った選手とあこう堂を対戦させたりしたが、出場機会の足りない選手もあり、最後の時間では希望者全員を2列に並べた試合を1試合場で行い、もう1面では自由乱取を行った。

出場者は、国内各所より中学生（14歳）から68歳まで。出身国もブルガリア、ルーマニア、フランスに及んだが、日本よりもKosen-Judoは知られているようで問題なく対応。空手、合気道など各種格闘技、武道の有段者も多く多士済々。試合を通じた交流自体にも意義があったように思う。結局、このルールの本道（醍醐味）とは違う点取り戦ばかりで行われたが、むしろ全員が出場可能で、消耗も少なく、みな喜々として次々に試合をこなしていた（各チーム3試合前後、全11試合を実施。時間は、5分制が1試合だけであとは3～4分制）。68歳の吉成選手も勝利を挙げるなど、年齢に関係ない老若の活躍も注目された。

50歳代の出場者も計5名。主力として3名（登録は4名）出場した「あこう堂」は別にして、実力下位順という取り決めの先鋒、次鋒に回っていたせいもあるが、トータル2勝9分と健闘。



本大会に最高齢68歳かつ最高段位（六段）で参加し、
寝業研究会（東京）や大東流合気柔術でも研鑽を積む吉成選手。
下からヒザで制した腕ひしぎの一本。
相手は長崎三菱の久保三段（44歳、体重90kg）。

一方、18歳の井上二段（吹田柔術・柔術茶帯）も2勝1敗で技術優秀賞（仁木賞）。さらに当初は試合参加すら無謀と思われた最年少（14歳）の中学生2名も活躍。あこう堂でこのルールの練習も積んでいる彼らだが、中学生相手には三角絞め・関節技ナシが今回の取り決め。柔術系の大人にとっては、慣れない抑え込みと、極めは絞め技のみという、酷なルールだが、彼ら中学生が、柔術家や経験者（七大OB）までも相手に、立ってよく攻め、抑え込みも逃れる姿には驚いた。結局、中学生2名は、ブラジリアン柔術黒帯2名、茶帯1名、七大OB2名、外国人柔道家（柔道二段・ブラジリアン柔術青帯）1名という強敵との6戦で5分。「関節技ナシ」では、普段、あこう堂の大人も手を焼くのだが、絞め有りのアマレスルールと考えれば、お互い体幹の鍛錬、グラウンドコントロール技術にいい練習法かもしれない。他に高校生1名（16歳：あこう堂）も七大OBには抑え込まれたものの、ブラジリアン柔術黒帯に1分けと健闘。

トップ柔術家（一心柔術代表・後藤）が、大阪府の強化選手とはいえ白帯の中学生に、柔術では有効ではない後袈裟固で抑え込みを宣告されるシーンもあった（※さすがに宣告後は、瞬時に逃れた）。「柔術家ではとってこない方法に反応が遅れた」とのこと。大人の気遣いもあったようで試合自体は引き分けだったが、対戦相手、ルールとあわせて今回ならではの異次元な情景となった。「普段のルールとの違いで盲点もあり、気付く点多々あった」と言う。



後藤（柔術黒帯・一心柔術代表）に対する
中学生の後ろヶサ固め。抑え込みの宣告

ちなみに、後藤（一心柔術代表）は、ブラジリアン柔術の強豪だが、柔道経験はない。畑違いのブラジリアン柔術専門で、さらにその道場経営者であるにもかかわらず、土日をつぶして、初ルールの試合に遠路東京から参加してくれたこと自体、勇気を讃えたい。名誉にかかわる？ 記載内容についても確認したが、実名で構わないとのこと。その男気にも感謝する。技術的に、柔道ルールには不慣れなようであったが、「柔術」に持ち込めばさすがに柔道の強豪相手にも巧みな技術で優位な試合展開であったことは付け加えたい。

後藤に限らず、柔道経験のない柔術家は「投げでも抑え込みでも一本負け」「寝業でも持ち上げられるとマテ」「手首・足関節ナシ」など慣れないルールに戸惑ったか、黒帯の強豪が投げや抑え込みで敗退する場面もみられた。私としては、現在、あこう堂で、「高専柔道」として指導することもあるので、習得に時間を要する抑え込みや投げの重要性も再認識した。

だが「柔術家」は一旦寝技の展開に持ち込めば、極め、足使いによる防御、返し、バックを奪う技術には卓越したものがあり、強豪柔道家を攻めたり、抑え込みの一本もとっていたのはさすが。

（※国士舘の重量級とかでなく今回出場クラスの柔道家相手であればという前提だと思うが）「引き込みさえ成功すればこのルール経験者（七大OB）以外の柔道家に負けることはない」との感想もあった。

一方、大会随一の強豪、坂本四段（マスターズ100kg 超級優勝などの実力者）は、七大若手OBチームにも本大会唯一の失点（負傷）を与えるなど長崎三菱の不動の大將として最多の4戦4勝で技術優秀賞（仁木賞）。相手の引き込みもものともせず、逃げ腰の相手に使うという「谷落とし」も連発。柔道・柔術の実力者を宙に舞わせた（4勝中2勝が谷落とし）。現在の国際ルールでは下半身に触れる禁止技だが、衰退しつ

つある古来の「講道館柔道」の技に、過去の因縁を越えて「高専柔道」が場を提供するという、これも今回の「古流柔道」の象徴的なシーンとなった。



※坂本 4 段（長崎三菱柔道クラブ）の谷落とし。
相手は錦選手（柔道二段、ブラジリアン柔術青帯）。
「下半身に触れず腕のロックだけで投げるのはかなり困難」「古来の技も残せる講道館ルールは望ましい」という「講道館柔道家」。

「柔道」「高専柔道（七帝）」「ブラジリアン柔術」が一堂に会したある意味、異種格闘技戦ともなった今回、やはり突出した実力を発揮したのは、最近までこのルールでしのぎを削ってきた若手OBで結成した「七大学若手OBチーム」。

長崎三菱、ねワ阪神、東京仁柔会といった柔道、柔術の強豪 3 チームの 2 1 人を相手に合計 1 7 勝 3 分（1 敗のみ）と完勝。3 分制の試合でもほとんど一本勝ちしており、仮にチーム総当たりでも全勝したと思われる。同じく経験者（七大柔道OB）を擁し、助っ人も揃えた強豪「吹田柔術」の 3 勝、唯一の講道館柔道系として最多 4 戦こなしたが寝業での失点も多かった長崎三菱（1 勝 2 敗 1 分）などを得点で引き離し、文句なく第一回の優勝杯を手にした。



- 優勝杯授与（七大若手OBチーム：鷹合選手（阪大OB））
（鷹合は個人でも 3 戦 3 勝で技術優秀賞（仁木賞））
- ※出場選手は、
東北大：大岡／京大：松浪、前川、
阪大：鷹合、田中、松村／九大：井手／神戸大：佐段田※（※ 2 戦目から）
（他に登録のみ、北大：今成、東北大：河合）
（前川、田中、鷹合、井手、佐段田は三戦三勝）

このルールの一線級の選手の出場に試合も引き締まった。特に柔術も研鑽中の若手は、さすがの地力と技術でスキもなし。

技術的にも、お互い、カメ・抑え込みの固さ（高専・七帝柔道）、関節技の巧みさ、カメにならない体サバキ、足の使い方（柔術）、一本とれる投げの技術（柔道）など、それぞれの特徴、重要性を体感できたのではないかな。

●技術優秀賞（仁木賞）計 3 名



井上 1 8 歳（吹田柔術：2 勝 1 敗）



坂本（長崎三菱：4 勝）



鷹合（七大若手：3 勝）

●賞品



優勝カップ
技術優秀賞（仁木賞／仁木先生提供）

「寝業の傳統」
（あこう堂提供）

野村チューブ・野村リスト（あこう堂提供）
仁木征輝・高専柔道パッチ（矢間氏ほか提供）
大相撲てぬぐい全員分（※あこう堂提供）

●賞品授与：↓野村チューブ

↓「寝業の傳統」



技術優秀賞（仁木賞）が3名に、副賞、参加賞などとして、野村チューブ、野村リスト（ミュンヘン金メダリスト野村豊和先生開発の鍛錬具）、「寝業の傳統（技術本）」など柔道にちなんだ品、大相撲てぬぐい（いずれもあこう堂提供）、仁木征輝イラスト・高専柔道パッチ（矢間氏ほか提供）など珍品も授与された。

主催者側としては「古流」の看板でもあり、今後は、足関節技、手首関節などの各種関節技、また現在反則になったカニバサミ、河津掛けなどの解禁（復活）、抱き上げ一本の復活などなど「古流」への回帰も検討課題だったが、今回のまま七大学ルールの継続が望ましいように感じた。活況というわけではないが、現在確立されているルールでもある。

投げ、抑え込み、絞め、関節、どの技術でも一本なので、どの分野の出場者も普段の技術を生かせ、バランスもよい。柔術家にとっても「柔道」とは異なり、引き込みが許され、寝業時間は無制限である。一方、柔道家は投げで一本を狙え「ブラジリアン柔術」とは異なり、持ち上げれば立技に戻れるし、近年のルール制限とも無縁で古来の投げ技も捨てずに済む。高専柔道（七帝大）の選手も、柔術と異なり、抑え込みの一本があるため抑え込みの技術の発揮、練磨が可能。（個人的見解かもしれないが、抑え込みのグラウンドコントロールは極め以前に寝業の基礎であるべきと考える）。

シンプルで、立っても寝ても、組手も足の絡み方も自由。サンボ、相撲、レスリング何でも活かせるという何でもアリ。逃げ場はなく1本のみで、納得するしかない最終決着という、ある意味「柔道デスマッチ」が魅力だが、関節技はヒジのみであるなど、経験が浅くとも危険性は少ない。立・寝の移行技術も実戦に応用しやすいが、抑え込み重視でグラウンドコントロール力も付き、安全に体力が向上。実は今回のような交流戦にも向く、最大公約数的な汎用ルールとも言える。

今回は出場者のバラエティ、会場面、協力者も含め、ある意味ベストの大会だった。経験者の七大OBもこの技術の真髄を見せたのではないかな。自由かつ気楽に試合を組み経験を積める機会となったこと、また異分野同士が自分の得意領域に持ち込むためか一本決着も多かったことなど、見る側、やる側ともに総じて良

い感想につながったように思う。ただし、これ以上活況になり参加者が増えれば、今回のような個人負担の運営は難しいし、逆に、柔道界の一線級・強豪私大などが興味を示すほどの潮流が生まれれば役目は終わるのではないかな。

今後も古流への遡及や、大規模化を目指すよりも、得意技をルール改定で封じられた柔道家、ポイント制に飽き足らない柔術家などへの機会提供、草の根の技術交流の場としての「古流柔道」でよいかもしれない。

往時には主流であった「高専柔道」も、今や、全国に七大学（旧七帝大）の学生の間で細々と継承されるだけ、技術や実力の披露の場すらなかった経験者にとっても励みになると思われる。未経験者も格闘技としての意義を知り、普及、発展の機会になれば喜ばしい。今回のルールに近い学生大会を行う旧三商大（一橋大・神戸大・大阪市大）出身の若手（神戸大OB、佐段田選手）が途中から七大OBチームに加わったのも交流・発展に有意義であった。各分野の参加者、会場・試合の運営、懇親会等のご協力者にも謝意を表する。

激動の柔道界でルール変更も烈しい現在こそ、高専柔道のような古来変わらぬ技術体系の意義は増したと考える。一般には東京の寝業研究会ほか一部で行われている程度であるので、今回主催したあこう堂（神戸・須磨）も微力ながら場所を提供し続けたいと考えている。



全体写真

灘高柔道場の
嘉納治五郎直筆
の掲額
「精力善用」
「自他共栄」と
肖像写真の前で

<主催者としての感想>

今回、仁木先生の肝いりで、主催させていただくことになりましたが、当初は、仁木先生の指導を受けている2チームの対抗戦（あこう堂V s 長崎三菱）の話でした。しかし、仁木先生の「高専柔道大会」に対する長年の夢があり、徐々に話が大きくなり盛大な催しになりました。運営は大変でしたが、会場にも恵まれ、結果として成功だったと思います。嘉納治五郎出生の地であり、氏がその設立時から携わった灘高開催となったことで神戸開催の意義もありました。

日程は、子供のため家族旅行（家族サービス）と兼用にしたいという長崎組（長崎三菱柔道クラブ）の事情で土曜午後の想定になりましたが、その後も関係者の学校行事などとの関係で、調整に2転、3転。その間に会場も王子スポーツセンター開催の想定から、関係者のご縁により灘中・灘高に変更。ただし新学期の予定とのからみがあり、案内なども両会場併記のままで、会場が正式決定したのは4月の新学期にずれ込みました。無事にゴールデンウィーク（GW）明けの開催となりましたが、実は、GW前後はあこう堂的にもイベントなどが続き、普段、仕事だけでもギリギリの私個人としてはしんどかったです。気候的にはよいのですが、新年度、新学期の予定も早期には立てにくいようで、開催時期は見直したいと思います。関係者の都合をあわせて日程まで決定できれば半分は成功でしょう。

試合の方は、七大若手OBチームがこのルールでの実力を発揮してくれ、経験者の「七大側」としても面目が立ちました。あこう堂も「高専（七帝）柔道」を標榜してはいますが、高齢の経験者や、子供、初心者、異分野の人などが主流です。経験者の継続、未経験者の体験からはじめ、仁木先生の指導で技術に目覚めた

り、増田俊也氏（北大OB）の本の効果で、水曜夜一回の練習がなりたつ人数になった程度。乱取だけでなく、基礎と研究にも時間を割く方針で、週末の開催もときおりの不定期です。正直、今の陣容で、「道場」「選手」相手に、ホスト側として参加要員も調節しながらの参戦は酷でしたが、中高生の予想外の頑張りに救われました。

＜あこう堂チームとしての感想＞

結局、「あこう堂（A）チーム」の出場の7名中、主力？として50代の七大OBが3名（登録は4名）、中学生2名も1回出場という陣容でした。「Aチーム」としては柔術チームと2試合対戦。ただし初対面で余っていた人を出したり、「あこう堂混合チーム」、「あこう堂Bチーム」でも中高生、初心者、半引退選手を出したり、当日参加で余っていた人と対戦させたりと、チーム自体が人数調節役となりました。

50代（昭和世代）高齢者3名（京大：佐藤、東北大：大森、九大：畠山）は、トータル5出場で5分け（人数調整のため出場機会がなくなった場合もありましたが）。いざとなればカメでも負けない年輪？を見せました。一方、「あこう堂（A）チーム」の主力と思われた中堅、若手の七大経験者は正直、ルール未経験の柔術家、柔道家相手なら最悪カメでもいいから分けて欲しかった。「正しい」「普通の柔道」で玉砕、秒殺された「七大らしくない」試合もありました。ただ、学生の時のように「死んでも分ける」のか、「正しい」「楽しい柔道」でいくか、大人の七大ルールの試合をどうとらえるか、今後、あこう堂がどこを目指して、どう運営するかはずっと課題です。

もともとあこう堂は個人的に「ブラジリアン柔術」の場ではモメたり、納得もいかず、「柔道」では寝業がイヤがられ、「七大柔道」には行く機会もなかなかとれず、行っても本来学生のものであり、練習場所がないといったキッカケから始めました。本来の武術性を残し、格闘技のベースとしても重要な要素があると思います。ブラジリアン柔術だと気楽にできる道場がたくさんあることも刺激になっています。ちなみに、「赤穂（あこう）」の名称は実家の屋号からとっています。命名の際、これが長く（約400年）続く屋号であるが、時代の波で消滅しそうなこと、長男であるが諸般の事情で継がなかったことから、ここにでも残そうと名付けた建物名です。何の含意も他意ありませんが、これで通用し出したのでこのままいくでしょう。（どなたか七大柔道系で主宰してくれるなら、建物名とは別に、その会の名称にしてくれて結構です）。

＜（個人的に）選手としての感想＞

私（年末で53歳）自身は、あこう堂代表としての立場上「相手チームの一番厳しそうな選手？」との対戦で、1試合は時間切れで取り逃し、もう1試合は、阪大柔道部出身の柔術でも名選手で、攻め込めるような相手ではありませんでした。年を重ねるごとに体の不調も増えていくので毎回これが最後か？という思いもあります。今回は試合前から肉体的、精神的に柔道自体がギリギリの状態で、もう少し運営より試合に集中できる状況で臨みたかった。七大の仲間との試合は楽しくも残念でもありました。もう1試合くらいやりたかったですが、チーム数も増え、人数調節のあこう堂メンバーも多かったため、最後は1面で希望者の試合の対戦組み合わせを仕切り、全体が落ち着いたのを見てもう1面の乱取りの方に少々参加しました。

また、試合動画を見直したところ、私の1試合目は相手の帯の締め方があまりに緩い。これは個人的には根本的な重大問題です。実は、ブラジリアンの方は帯の締め方が最初から緩く、ほどけるとそのまま解いて放り投げるといった行為になじめなかったというのが、私があこう堂で「高専柔道」を始めた理由の2割くらいを占めているのです。ブラジリアン柔術連盟会長中井祐樹氏の見解では「帯は締め直さるべき」「帯ナシでやるなら私は脱ぐと言う」のだそうですが、会長の見解でも「ブラジリアン」の共通見解ではないようです。私がヨソ様の道場で「帯直せ」と怒るワケにもいきません。ここで、また同じ目に合うとは。

私も自信がなかったころは「試合時は固い帯で」「ほどけた方が得だから」という時期もありました。今はブラジリアンの方に不公平を指摘している立場だし、あこう堂の練習では直す時間も惜しいので差し結びを推奨しています。差し結びにしてから、途中で解けて困ったことは一度もありません。空手や合気道で推奨されているのだから、直接コンタクトのある柔道こそ、義務付けたいところです。剣道では防具が外れても直接反則になることはないですが、武術としては有り得ません。相撲ではマワシが外れると負け、ユルフンは卑怯で見苦しいことです。3～5分の短時間の試合で帯をユルユルに締め、簡単にほどけることに気づく頃には終わっていたのでは本当の攻防にはなりません。いろいろ残念でした。

＜取材・報告者としての感想＞

今回は月刊「秘伝」への大会記事投稿予定もあったのですが、自身が現場を取り仕切りながら、出場もして、かつ観戦・記録・取材するのは不可能とわかっていました。そこで、選手情報だけは事前にまとめるべく数か月前から準備したつもりだったのですが、結局、間際と当日の参加も増え、間に合いませんでした。試合後懇親会の際も全体の目配り、保険(事故)連絡などのため取材の余裕などなく、結局、事後にメール(フェイスブックなど)を活用して、選手情報(身長、体重、段位、帯色)、感想やコメントも聴取。試合記録に関しても仁木先生の関係者による整理は名前と勝敗だけだったので決まり手、試合時間など聴取しました。試合内容も撮影してもらった動画による事後確認となりました。これがなければ記事も書けませんでした。

吹田柔術(木下氏)の動画提供にも助けられましたが、2試合場分の全てを動画撮影しておくべきでした。実は今回、動画撮影用にデジカメを追加購入して2台態勢にはしていたのですが、ぶっつけ本番で確認できておらず、画質のせいか新機種の方は、早々に記録媒体の上限に達し、また頼んだ2名とも意思の疎通がうまくいっていませんでした。当日、誰か来た人間に頼む程度の想定だったのですが、試合出場者はいても、協力を頼めそうな奇特な当日参加者はいませんでした。充電、撮影等、現場で一人で気を配るのも限界があり、専属2名決めておくべきでした。

＜運営上の問題点＞

日程の決定を別にすれば、出場チーム・選手の募集と締切が最大の問題です。今回はテストケースで、宣伝も足りず、需要もわからないので無理は承知でギリギリまで受け付けました。結果として上限と思われるチーム数(6チーム+約2チーム分)と選手(50名強)が集まってくれましたが、当日の個人参加などを受付、聴取して、レベルも勘案し、怪我などないよう全てチームとして出場して対戦してもらうには、かなりドタバタしました。後で気づいたけど、種々雑務で手一杯で、「表彰状」も紙と筆の準備はしてましたが、当日は放ったらかしになってました。当然ですが、次回があれば募集はキッチリ締め切り、対戦も決め、パンフも余裕を持って準備(印刷)したいと思います。

7名のチーム制というのは確立してもよいように思いますが、次回もしこれ以上参加が増えれば、土曜午後の半日ではおさまりません。今回、変則リーグ戦で全11試合のチーム戦が行われましたが、全てが点取り試合で、試合時間もほとんど3分か4分の短時間でした(5分で行ったのは1試合だけ)。本格的な寝業の試合なら最低でも5分は欲しいところです。今の運営法で大会場にしたり、同じ会場で全日開催するのも現実的に難しいので、トーナメントにするか、チーム数を制限するかなども検討です。

保険は、今回、主催者側として不安があったので大会として加入。軽いとはいえ怪我人もでたため、安心のためには次回も入った方がいいように思います。どなたか担当してもらえると助かります。

参加費は今回1名300円としましたが、保険代や諸経費の実費を考えても安すぎるし、同様の柔術大会、柔道マスターズ大会並に、懇親会費とは別で参加費だけでも数千円程度は徴収すべきでしょう。あるいは各チームから2名程度の運営スタッフの分担を義務付けるか、無理な場合はチーム参加費として2万円程度の上乗せなどを考えます。試合成立の背景に協力者の負担があることをわかっていたいただきたい。参加費用にも「早期割引(早割)」と「後出し(遅延)割増」を設け、運営スタッフは「懇親会無料」&「薄謝アリ」と決めていいと思います。試合に出場して「楽しむ側の人」はその分の費用は負担すべきかもしれません。

＜次回想定＞運営スタッフ分担(全部で15～20名)：

●パンフ印刷：数名(プリント可能な人、誰でも可)

(※コストと手間を考え、締め切り後に数名で分担して100部程度印刷。カラー印刷を1部100円で大会側が買い上げる方向。感覚的に実費で50～100円と手間もかかります)

●受付、案内、集金、名簿チェック・大会保険担当(最低2名。※ただし撮影と兼任できるかも)

●会場設営、タイム、掲示、記録、進行(1試合場3名、選手兼任可。計6名)

●表彰状記入(記録確認&表彰)

●撮影(動画で1試合場最低1名、できれば静止画込みで全3名)

●顧問医師(柔道整復可・謝礼予定(薄謝あるいは広告とバーターでどうでしょうか?))

●審判(主審・副審)(交代要員込み、選手兼任可。6名程度)

●懇親会準備・片付け(数名、ウチの家族が担当できる場合でも+数名)

<今後>

次回を望む声も多く、機会があれば「第二回」も検討いたします。今回は初回でもあり全てのシワ寄せは個人でかぶる気でしたが、最後は苛酷でした。意義はわかってもらえたと思うので、次回は、七大関係者などで主催、協力いただければ助かります。七大経験者も是非出場してこのルール of 真髄を他分野の方にみせていただきたい。本来畑違いの柔術チームの出場も有難いことですが、七大側の出場がなければこのルールの試合自体、意義が薄くなります。出れば、お互いに足りないものに気付くなどよい経験になるでしょう。

さらに七大柔道の経験者にとっては、このような草の根の会でも開催し、媒体にでも載れば、格闘技的意味の宣伝、新人の勧誘や経験者のモチベーションの維持、さらに普及、発展にも役立つかもしれない。あこう堂は継続を諦めつつあった経験者、高齢者、未経験者への場所の提供、楽しさ・意義の再発見も役割の1つと思っております。

<謝辞>

七大関係では、沢井（九大）、瀬戸口（東大）、森本（東大）、吉岡（名大）の各氏から広告費、寄付としてご支援いただきました。その他、仁木先生・弟子（作陽高校一期生）、矢間（漫画家）、あこう堂練習生（土橋）、長崎三菱柔道クラブ、北浜柔道塾（白土）など各氏の広告についてもパンフを参照下さい。ここにお礼申し上げます。大会の経費（保険代、懇親会の補助など）に充てさせていただきました。岡本先輩（京大）は遠路ご来神、ルール解説、主審をご担当くださいました。清瀬・山下（九大）と、七大の若手も審判担当してくれました。お疲れ様でした。また、一部協力者の方はパンフにも記載させていただきましたが、会場、懇親会、受付、集金等にもご協力をいただき、仁木先生若かりし頃の（すでに高齢となった）お弟子さん方やご家族には遠路、試合のタイム、記録、掲示、進行などでご参加いただきました。多くのご協力なしでは無理でした。有難うございます。

<写真集>



↑長崎三菱柔道クラブ（長崎から家族連れで）



↑ねわざワールド阪神（仁木先生を囲んで）



記念撮影。

全チームで撮ったのが良かった。

カメラの放列にスター気分ですね。



仁木軍団（試合まわり運営スタッフ・掲示・記録・タイム・進行）↑

急遽結成の混成チームも楽しそう↑

●表彰式終了後／全参加選手集合写真（嘉納治五郎直筆の「精力善用」「自他共栄」両方の掲額が入ってます）。



●試合後懇親会



仁木&岡本&七大高齢組(高専柔道世代?!)

七大若手OBチーム (+ α)

	<p>懇親会場全景 ←</p>		<p>私は、試合時間は5分制でも十分に短いと思いますが、仁木・岡本両先生は「4分」を推奨・・・。</p>
	<p>長崎三菱柔道クラブ ←</p>		<p>怪しい相談か？柔道論か？</p> <p>元京大主将 (50代) & 元天理大副主将 (40代)</p>



最後まで居残ったのはやはり七大系でした。(片づけもありがとうございました)。

●以下、試合シーン＜まず七大OBに関する画像から・・・＞



鷹合二段(阪大OB23歳)、巴投げから堂本四段(長崎三菱47歳)のバックをとり、十字固めに移行して一本。



服部二段46歳(名大OB吹田柔術)、大塚(長崎三菱柔道クラブ)を、名大・小坂光之介師範(※「北の海」の大天井のモデル)仕込み?!の横三角に捉え、キツリ抑え込み。



松浪三段 24 歳（京大OB：七大若手OBチーム）
尾山二段(ねワ阪神)から縦四方で一本勝

佐藤四段 29 歳（北大OB：あこう堂）
Vs 原（柔術黒帯:吹田柔術）＜引き分け：3 分制＞



栗林三段 45 歳（北大OB：あこう堂・67kg）
巴投げに出るが巨漢ウヰァノ二段（吹田柔術:柔術茶帯/
ブルガリア 180cm100kg）の抑え込みに圧殺される。

平田三段 35 歳（阪大OB：吹田柔術・柔術黒帯）
Vs 畠山三段 52 歳（九大OB：あこう堂）
攻め手なく引き分け（※ 3 分制は短かった）。



佐藤四段(北大 OB)Vs. 錦二段
（※最後に行った希望者対面整列の試合）
引き分け。＜ 3 分制＞

前川四段 23 歳（京大OB：七大若手OBチーム）Vs 矢間（東京）。
冒頭の矢間のタックルで前川下になるが、そのまま反転
して抑え込み。地力の差をみせる（前川、三戦三勝）



東初段 40 歳（灘高 OB で北大 OB：あこう堂・混合チーム）
Vs ビンセン二段（フランス）[柔術・東京混合チーム]
＜引き分け：4 分制＞

（※当日参加者とあこう堂の余剰組を対戦させた「調節試合」）
主審：岡本（京大）
副審：清瀬（九大）

 <p>主審 清瀬(九大)</p> <p>← 4分制 →</p> <p>佐藤 52 歳（京大OB：あこう堂） Vs. 黒川（ねワ阪神/柔術茶帯）引き分け</p>	 <p>大森三段 50 歳（東北大OB：あこう堂） Vs. 津久井（ねワ阪神/柔術茶帯）引き分け</p>
 <p>副審：山 下(九大)</p> <p>← 3分制 →</p> <p>松村二段 23 歳(阪大 OB：七大若手 OB チーム) Vs 鈴木三段 54 歳（名大 OB；東京仁柔会[寝業研究会]）。七大 OB 同士では最大年齢差対決。故障中の鈴木、抑え込まれると同時のブザーで辛くも引き分ける。</p>	 <p>井手三段 23 歳(九大 OB:七大若手 OB チーム・柔術茶帯) Vs 吉成六段 68 歳（東京仁柔会[寝業研究会]）。45 歳差の最大年齢差対決は、井手が肩固めで制する。（※井手、三戦三勝）。</p>



↑ 田中二段 23 歳（阪大 OB:七大若手 OB チーム柔術紫）
三角からの十字で石角(長崎三菱・大産大)を破る。



↑ 鷹合二段 23 歳（阪大 OB:七大若手 OB チーム・柔術紫帯）
Vs 錦二段（崩袈裟固）（鷹合、三戦三勝）



強豪・石角（長崎三菱・大産大 81kg）を巴投げからの十字で破り、
トップ柔術家・後藤（一心柔術代表）も抑え込んで会場をどよめかせた片桐（23 歳・阪大 OB：吹田柔術）の縦四方を、福崎（14 歳・中学生：あこう堂）が抜群の柔軟性で逃れる（※ 右写真）
中学生相手なので関節技も使えず、取り逃がした片桐は苦笑いだが、中学生の奮闘に会場喝采。
福崎、「殊勲の引き分け」。（※ 3 分制）



山下(九大OB/あこう堂)、ずっと副審担当だが最後に人数調節のため?あこう堂同士の対決でやっと出番。白帯の樋口を難なく抑え込むが、樋口が「あこう堂」で出場なので、ポイントは相手チームに?!



< 4 分制 > 土橋 (中学生/あこう堂) Vs. 五藤初段 29 歳 (北大 OB/混成チーム)。土橋攻めまくり引き分け!

★今回の試合ならではの対戦、特徴的な試合シーンなどまだまだあり。動画から切り出せたものなど、以下・・・。



↑坂本四段 (長崎三菱) V s 錦二段<谷落とし・連続写真> ↑
 ←坂本 (長崎三菱) V s 井上二段 (吹田柔術) (谷落とし)
 (坂本、100kg 超だが軽快な身のこなし。
 腕のロックもよく、体重と反りも効いた手練の捨て身)



福崎 (弟:中学生) 柔道初段
 Vs 戎谷・柔術黒帯。
 戎谷、得意の十字固めの態勢だが、
 相手は中学生のため使えず。3 分制
 だったが、立ってもよく攻め、柔術
 の強豪と分けた中学生の健闘に会
 場拍手。



1 まず相手の下に押し込む



2 相手の反応を利用して引き付け



3 突き上げながら返して



4 反転して上になる

片桐 (阪大 OB) Vs 後藤 (一心柔術代表: 柔術黒帯)。柔術では形態・ルールによってポイントにならない場合もあり、使われにくいという「鉄砲返し」から片桐が抑え込み。投げ(内股)の技ありと合わせて、トップ柔術家から「柔道ルール」での一本奪取に会場どよめく。< 5 分制 > 試合終了間際の攻防。



柔術黒帯の白神を抑え込む佐段田三段（神大 OB 柔術紫帯）と見守る七大若手 OB チーム（※佐段田、三戦三勝）



田中二段(阪大 OB/柔術紫)、竹下三段を下からの三角挟みで返し、最後も関節で一本勝（※田中は全て十字で三戦三勝）。



←
3 分制
→



藤原(柔道初段・空手師範)Vs サボウ(総合拳法師範)。
両者打撃戦の構えでスイッチの入った藤原、ローキック気味の足払いと組手も突きのようなラッシュ。寝技は両者決め手なく引き分けたが、ある意味、両者かみ合った?! 試合。

後藤(一心柔術代表)、松浪三段(京大 OB)のバックを奪うが「柔道ルール」では体が浮けばマテ。試合は引き分けたが、強敵相手に後藤は終了時もバックキープで柔術の技術をみせた。実力者同士で 3 分は短い。



若手実力者同士。
片桐二段(阪大 OB・吹田柔術 23 歳 73kg 柔術青帯)が、
石角二段(長崎三菱・大産大 19 歳 81kg)を
巴投げからの十字固めに破る。



福崎(兄：高校 2 年生)
Vs 橋本(柔道初段・柔術黒帯)。
(※高校生なので関節技アリの試合)
手こずった橋本、組み際のタックル(双手刈)にできるが
福崎(兄)腹ばいで逃れる。
柔術黒帯を相手に引き分けて驚かせた。
(※試合は 3 分制。
寝てじっくり攻める柔術家には短かったか)



巨漢イヴァノフ二段(180cm100kg/吹田柔術・柔術茶帯)相手に、タックル(双手刈)、腕返し(袖返し)とトライする竹下三段(70kg/東京・寝業研究会)。つぶされてカメになるも引き分け。(※この試合は 5 分制)



寝業勝負の谷口二段(ねワ阪神・柔術青帯 66kg)に対し
吊り上げて審判をうかがう大塚四段(長崎三菱・80kg)
だが、清瀬主審(九大OB)のマテの宣告なし。

<試合は谷口が抑え込みで勝利>



錦(二段・73kg)の跳び付き十字を、身じろぎもせず
笑顔で高々と抱え上げる坂本四段(長崎三菱・107kg)に
審判がマテを宣告。

<試合は坂本が谷落として勝利>



佐藤四段(北大OB・29歳)、勝二段(ねワ阪神・柔術紫帯・
180cm70kg)に後ろに回られ、立ちかけるが、清瀬主審のマテの
宣告なく、そのまま潰されてマイッタ(送り襟絞め)。勝は大
道塾(空道)全日本優勝経験があり、修斗、キックもプロだが、
このルールは初体験者。佐藤、不用意な秒殺。ルールにかかわら
ず武術としては、審判頼りでなく自ら打開できるのが本道。



終了後立ち上がる両者ともが腰に手をやった「同級生」
オジイちゃん？先鋒対決。53歳・新川(100kg 吹田柔術
代表)Vs52歳・佐藤茂(77kg 京大OB あこう堂)。(※実は
主審も筆者(畠山)も同い年)。
佐藤、最後は往年のカメで安定の分け。



<5分制>

柔術黒帯同士の対決。平田三段(阪大OB／吹田柔術)
が白神(柔道は白帯)から背負い投げで技あり。
平田が立・寝ともよく攻めるが、試合は引き分け



永田(長崎三菱22歳・初段 94kg)が、
白神(柔術黒帯 88kg)のタックルを受け止め
隅返し(帯取り返し)で一本。
柔道では白帯の白神が、やや不用意だったか。

原(柔術黒帯・柔道白帯・75kg)Vs. 永
田(長崎三菱22歳初段 94kg)。
原が、佐々木型(片腕巻きスパイダー
足返し「黒落とし」)で返して抑えに
かかるが時間切れ

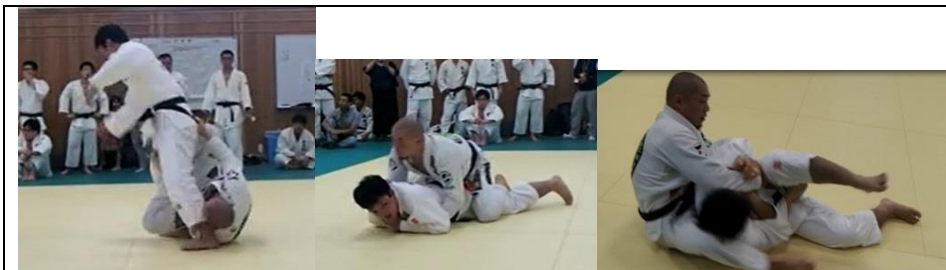
<3分制>。

永田、寝技に不慣れなのか、腰高で
見事に返しを喰らった。

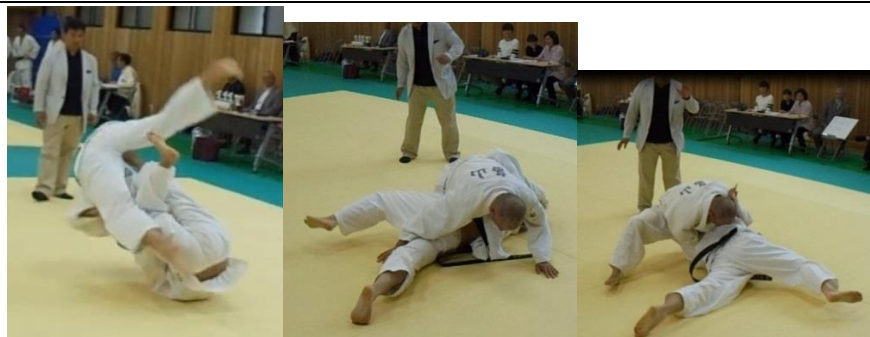


←





石角二段(長崎三菱・大産大・19 歳)
Vs. 後藤(一心柔術代表)。
後藤、開始早々に股くぐりからバック奪取。そのままバックキープするが、固い亀に手を焼き、時間切れ(※3分制)。



畠山三段(九大OB／あこう堂52歳64kg)が、松浦五段(ねワ阪神 30 歳 85kg)に対して七大柔道ならではの「引き込み返し風の巴投げ」。松浦、横倒しで逃れる。以降は体力差に手こずり、終了間際には、触れただけで解ける魔法の帯(ユルフン)で時間切れ、取り逃す。

<4分制>。(※個人的には、5分制にしておくべきだった。試合数をこなすには短い方がいいが、勝負には5～6分は欲しいところ)



14 歳土橋(白帯・中学生/あこう堂)奮戦も、柔術茶帯の 18 歳井上二段(吹田柔術)がさすがに寝業で優位。最後は崩上四方に抑える。中学生相手には関節技ナシの今大会で、七大 OB にも柔術黒帯にも抑え込まれなかった中学生 2 名の全 6 戦のうち唯一の黒星を付けた。

※最年少対決。
(18 歳 Vs. 14 歳)
実力上位の大將戦に堂々出場、唯一の 10 代対決。



68 歳・吉成六段(東京・寝業研究会)よく攻めるも、最後は 100kg の巨漢 53 歳・新川(吹田柔術代表)の横四方に力尽きる。<5分制>

※合計 121 歳の大会最高齢対決。
(68 歳 Vs. 53 歳)

実力下位順という先鋒戦に回ったが、さすが年季の入った攻防。



平田三段(阪大 OB: 吹田柔術・柔術黒帯・65kg)が、強豪・堂本四段(長崎三菱・70kg)に対し、腰絞めから足をとっての回転襟絞め。堂本辛くも逃れる。<引き分け>(※3分制。やはり短いと思う)

(※動画の撮影とご提供の都合により、吹田柔術とあこう堂が多いかも。他にも動画ありましたらご提供願います。現在の動画は YouTube で「古流柔道祭」で検索してみてください。)

<その他・もっとオマケ写真>



試合夜、あこう堂宿泊者はAM2時まで「歓談」



「嘉納治五郎」と記念撮影でご満悦。



一見、「白帯同士の対決」だが、柔術では戎谷が黒帯。柔道家なら抑え込むところを、十字固めに移行して樋口に圧勝。

橋本(柔術黒帯)下から攻めんとするが、サボウ(総合拳法師範)がパワーで封印。
<4分制、引き分け>



↑両者怪我が無いよう組み合わせに気遣いました↓



寝技では「場外などない」このルールではおなじみ、審判員による場内への移動。



このルールではおなじみ審判による試合中の帯の締め直し。
後藤(一心柔術)Vs. 片桐(阪大OB)

ビンセン二段(フランス)
Vs. 福崎(弟:中学生)



中学生の福崎が、むしろ攻勢のうちに引き分け
<4分制>



東・初段(北大OB)が、柔道は白帯の今松(極真空手三段&大道塾三段:空道全日本シニア優勝者)を難なく抑え込む



井上二段(柔術茶帯18歳)。抑え込みから逃れんとする錦二段(柔術青帯)を裸絞めに捕えて一本勝ち。



2試合場全景



黒川(ねワ阪神・柔術茶帯) Vs. 今村四段(長崎三菱)足がらみの態勢で膠着。
<4分制、引き分け>



最後は一面では希望者が乱取り・・・



一面では希望者が対面整列して、対戦相手を決めての試合。右側はあこう堂メイン。

						2017年5月13日(土)		
【古流柔道祭・試合結果】								
						ポイント		
試合順	長崎三菱柔道クラブ	勝敗	4分制	勝敗	七大若手OB	長崎三菱	七大若手	
先鋒	櫻井(柔道初段44歳70kg)		送襟絞	○	井手(九大OB23歳三段茶63kg)		1	
	大塚(柔道四段80kg)		上四方固	○	松村(阪大OB23歳二段青70kg)		1	
	永田(初段、22歳、94kg)		縦四方固	○	前川(京大OB23歳四段85kg)		1	
	石角(二段・大産大19歳81kg)		腕十字	○	田中(阪大OB23歳二段紫75kg)		1	
	今村(柔道四段42歳65kg)		崩上四方固	○	松浪(京大OB24歳三段85kg)		1	
	堂本(柔道四段47歳70kg)		腕十字	○	鷹合(阪大OB23歳二段紫96kg)		1	
大将	坂本(柔道四段107kg)	○	負傷		大岡(東北大OB24歳三段紫73kg)★	1	0	
	ポイント	1		6	★第1負傷者発生(肩鎖関節)	1	6	
						ポイント		
試合順	あこう堂(A)		4分制		ねわざワールド阪神	あこうA	ねワ阪神	
先鋒	藤原(柔道初段37歳80kg)空手家		崩ヶサ固め	○	谷口(二段青帯28歳66kg)		1	
	佐藤(茂)(京大OB52歳74kg)	×		×	黒川(初段茶帯28歳70kg)	0.5	0.5	
	大森(東北大OB50歳70kg)	×		×	津久井(初段茶帯40歳69kg)	0.5	0.5	
	佐藤(康)北大OB四段29歳73kg		送り襟絞め	○	勝(二段紫32歳70kg)空手修斗キック		1	
	栗林(北大OB三段45歳)67kg		ヶサ固め	○	金井(柔道四段45歳)72kg		1	
	畠山(九大OB三段52歳)64kg	×		×	松浦(柔道五段30歳)85kg	0.5	0.5	
大将	佐段田※三段神大OB25歳81kg	○	横四方固め		尾山(二段紫帯36歳77kg)	1		
	ポイント	2.5		4.5		2.5	4.5	
	※2戦目から七大OBへ移動							
						ポイント		
試合順	ねわざワールド阪神		4分制		長崎三菱柔道クラブ	ねワ阪神	長崎三菱	
先鋒	勝二段紫32歳70kg空手修斗キック	○	送り襟絞め		久保(柔道三段44歳90kg)	1		
	谷口/二段、青帯28歳66kg	○	抑え込み		大塚(柔道四段、80kg)	1		
	黒川/初段、茶帯28歳70kg	×		×	今村:柔道四段、42歳65kg	0.5	0.5	
	津久井/初段、茶帯40歳69kg	×		×	永田:初段、22歳、94kg	0.5	0.5	
	金井/四段、青帯45歳72kg	×		×	堂本:柔道四段、47歳70kg	0.5	0.5	
	松浦/五段、青帯30歳、85kg		内股	○	石角※(二段・大産大・19歳81kg)		1	
大将	尾山/二段、紫帯36歳77kg		ヶサ固め	○	坂本(柔道四段107kg)		1	
	ポイント	3.5		3.5	※当日参戦	3.5	3.5	
						ポイント		
試合順	吹田柔術		5分制		東京仁柔会	吹田柔術	東仁会	
先鋒	新川(柔術黒53歳100kg)	○	横四方固		吉成(柔道六段68歳)ネワケン	1		
	橋本(柔術茶)	×		×	鈴木/名大OB54歳80kgネワケン	0.5	0.5	
	原(柔術黒)41歳75kg	○	横四方固		矢間(柔術紫帯44歳)	1		
	イヴァノフ(二段・柔術茶)100kg	×		×	竹下(柔道三段37歳70kg)ネワケン	0.5	0.5	
	平田(阪大OB三段柔術黒35歳)	×		×	白神※(柔術黒88kg柔専館)	0.5	0.5	
	片桐(阪大OB23歳73kg)	○	合技(投&横四)		後藤(柔術黒、35歳75kg一心柔術)	1		
大将	井上(二段・柔術茶帯18歳)	○	ヶサ→裸絞め		錦※(柔道二段、柔術青73kg)	1		
	ポイント	5.5		1.5	※当日参戦	5.5	1.5	

						ポイント	
試合順	七大若手OB		3分制		東京仁柔会	七大若手	東仁会
先鋒	井手三段・茶九大OB23歳63kg	○	肩固		吉成(柔道六段68歳)ネワケン	1	
	松村二段・青阪大OB23歳70kg	×		×	鈴木(名大OB54歳80kg)ネワケン	0.5	0.5
	前川四段・京大OB23歳85kg	○	横四方固		矢間(初段、柔術紫帯70kg)	1	
	田中二段・紫阪大OB23歳75kg	○	腕十字		竹下(柔道三段37歳70kg)ネワケン★	1	
	佐段田三段※紫神大OB25歳81	○	横四方固		白神※(柔術黒88kg柔専館)	1	
	松浪三段京大OB24歳85kg	×		×	後藤(柔術黒、35歳75kg一心柔術)	0.5	0.5
大将	鷹合二段紫阪大OB23歳96kg	○	崩袈裟		錦※(二段、柔術青73kg柔専館)	1	
	ポイント	6		1	※当日参戦	6	1
	※1戦目のみあこう堂で出場				★習慣性の肩脱臼、第2負傷者		
						ポイント	
試合順	長崎三菱柔道クラブ		3分制		東京仁柔会	長崎三菱	東仁会
先鋒	久保(柔道三段、44歳90kg)		腕拉ぎ膝固め	○	吉成(柔道六段68歳)ネワケン		1
	大塚(柔道四段80kg)	×		×	鈴木／名大OB54歳80kgネワケン	0.5	0.5
	今村(柔道四段、42歳65kg)	×		×	矢間(初段、柔術紫70kg)	0.5	0.5
	永田(初段、22歳、94kg)	○	隅返し(帯取り)		白神※(柔術黒88kg柔専館)	1	
	石角※(二段大産大19歳81kg)	×		×	後藤(柔術黒)35歳(一心柔術)	0.5	0.5
大将	坂本(柔道四段、107kg)	○	谷落とし		錦※(二段、柔術青73kg柔専館)	1	
	※当日参戦	3.5		2.5	※当日参戦	3.5	2.5
						ポイント	
試合順	あこう堂(A)		3分制		吹田柔術	あこうA	吹田柔術
先鋒	佐藤(茂)京大OB52歳74kg	×		×	新川(柔術黒53歳100kg)	0.5	0.5
	毛利★(43歳初段・灘高OB)		送り襟絞め	○	服部※(名大OB二段青帯47歳)		1
	佐藤(康)北大OB四段29歳73kg	×		×	原(柔術黒)41歳75kg	0.5	0.5
	栗林／北大OB三段45歳67kg		横四方固	○	イヴァノフ柔道二段100kg		1
	畠山／九大OB三段52歳64kg	×		×	平田(阪大OB三段柔術黒35歳)	0.5	0.5
	福崎(颯)中学生14歳66kg初段	×		×	片桐(阪大OB23歳73kg)	0.5	0.5
大将	土橋(中学生)14歳68kg白帯		崩上四方固	○	井上(二段・柔術茶帯18歳)		1
		2		5		2	5
	★あこう堂じゃないです				※当日参戦		
						ポイント	
試合順	七大若手OB		3分制		ねわざワールド阪神	七大若手	ねワ阪神
先鋒	松村二段紫阪大OB23歳70kg	×		×	谷口(二段、柔術青28歳66kg)	0.5	0.5
	前川四段京大OB23歳85kg	○	崩上四方固		黒川(初段、柔術茶28歳70kg)	1	
	田中二段紫阪大OB23歳75kg	○	腕十字		勝(二段紫32歳70kg空手修斗キック)	1	
	井手三段紫九大OB23歳63kg	○	崩上四方固		津久井(初段、茶帯40歳69kg)	1	
	佐段田※三段紫神大OB25歳81	○	横四方固		金井(四段、青帯45歳72kg)	1	
	松浪三段京大OB24歳85kg	○	縦四方固		尾山(二段、紫帯36歳77kg)	1	
大将	鷹合二段紫阪大OB23歳96kg	○	崩上四方固		松浦(五段、青帯30歳85kg)	1	
	※1戦目のみあこう堂で出場	6.5		0.5		6.5	0.5

			3分制			ポイント	
試合順	吹田柔術				長崎三菱	吹田柔術	長崎三菱
先鋒	新川(柔術黒53歳100kg)	○	横四方固		櫻井(柔道初段、44歳70kg)	1	
	服部※(名大OB二段青帯47歳)	○	崩上四方固		大塚(柔道四段80kg)	1	
	橋本(柔術茶)	○	上四方固		今村(柔道四段、42歳65kg)	1	
	原(柔術黒)41歳75kg	×		×	永田(初段、22歳、94kg)	0.5	0.5
	平田(阪大OB三段柔術黒35歳)	×		×	堂本(柔道四段47歳70kg)	0.5	0.5
	片桐(阪大OB23歳73kg)	○	巴投→十字固		※石角(二段大産大19歳81kg)	1	
大将	井上(二段・柔術茶帯18歳)		谷落とし	○	坂本(柔道四段40歳107kg)		1
		5		2		5	2
	※当日参戦				※当日参戦		
						ポイント	
試合順	あこう堂(B)(あこう堂あまり)		4分制		混合・合同(当日参加組など)	あこうB	混成
先鋒	福崎(颯)中学生14歳68kg初段	×		×	ピンセン(柔道二段、柔術青)60kg	0.5	0.5
	福崎(義)高校生16歳68kg初段		横三→上四	○	五藤※(北大OB初段29歳)76kg		1
	今松☆(白帯)70kg(空手家)☆		崩上四方	○	東★(北大OB初段40歳70kg)		1
	樋口(白帯)67kg		十字固	○	戒谷※(柔術黒)62kg柔専館		1
	サボウ★175cm80kg初段	×		×	橋本※(柔術黒)73kg柔専館	0.5	0.5
大将	土橋(中学生)14歳68kg白帯	×		×	五藤※(北大OB初段29歳)76kg	0.5	0.5
	★あこう堂じゃないです?	1.5		4.5	★当日からあこう堂のつもり?	1.5	4.5
	☆仁木先生強制参加				※当日参加		
			希望者整列の試合				
試合順	あこう堂・混合(まだやりたい人)		3分制		東京・柔術ほか当日組など混合	あこう混	東京&柔術
先鋒	土橋(中学生)68kg白帯	×		×	後藤(柔術黒)35歳(一心柔術)	0.5	0.5
	佐藤(康)(北大OB)73kg	×		×	錦※二段73kg柔術青(柔専館)	0.5	0.5
	毛利(柔道初段)43歳71kg★	×		×	矢間(柔道初段、柔術紫)70kg	0.5	0.5
	藤原(柔道初段37歳)80kg空手家	×		×	サボウ(175cm80kg初段)総合拳法	0.5	0.5
	東(北大OB初段40歳)70kg★	×		×	ピンセン柔道二柔術青60kg	0.5	0.5
	福崎(颯)中学生14歳66kg初段	×		×	戒谷※柔術黒62kg柔専館	0.5	0.5
	福崎(義)高校生16歳68kg初段	×		×	橋本※柔術黒73kg柔専館	0.5	0.5
大将	樋口(白帯)68kg		抑え込み	○	山下(九大OB★あこう堂)	0	1
					※当日参加	3.5	4.5
	★当日からあこう堂のつもり?				★もともとあこう堂です		

※少しは間違っているところもあるかもしれません(仁木)。(「対戦結果」のシートのほうに、チーム対戦結果の表があります。)

※ポイント: 七犬若手18.5/吹田15.5/長崎10/ねっ阪神8.5/東京仁5(あこう堂は人数調節だけです)。

※怪我人の方に関しては大会側で保険申請(手続き)いたしました。

※自分1人くらい当日来ても大丈夫と思うでしょうが、レベルもバックボーンも不明の人が何人も増えたら、初心者も子供もいるし、全員出すとなると、ケガも心配、釣り合いにも苦慮します。事前に選手情報いります。ないと記事も書けません。現場仕切り、取材(撮影、情報収集)と試合出場まで全部こなす身にもなってください。こんなのは初回限りです。出る方は楽しいでしょうが、礼言って済まされてもなんにもならん。誰か主催しなさい。わたしも当日試合だけ出て「楽しかった」「ありがとう」って言ってやる(畠山)。